文教民生委員会　行政視察調査報告書

1　視 察 日　　2023年５月15日（月）～17日（水）

2　視 察 先　　〇埼玉県戸田市
調査事項　　・子どもの第三の居場所づくりについて
〇千葉県柏市
・長寿社会のまちづくりについて

3　視 察 者

委員長	岡本昭治
副委員長	米田達也
委員	石田清
委員	上田伴子
委員	小森弘詞
委員	竹中理
委員	西田真
当局	原田政彦（健康福祉部長）
議会事務局	小崎新子

戸田市こども家庭支援室の説明

戸田市議場にて

柏地域医療連携センターにて

柏市地域医療推進課・地域包括支援課の説明

日　　時	2023年５月15日（月）　午後２時00分～午後４時00分
視 察 先	埼玉県戸田市
調査項目	子どもの第三の居場所づくりについて
調査内容	(1)事業の概要について ①事業にかかる年間予算と決算額 （年度）　（予算額）　（決算額） 令和２年度　３４，３２７，０００円　３３，５７８，２３６円 令和３年度　３４，３１６，０００円　３３，７５８，５２８円 令和４年度　３４，３１６，０００円　３３，９９１，１５４円 ②利用者数と利用者の年齢（2023年４月現在） 学童（小１から小３）登録人数　６名／定員２０名 学童（小４から中３）登録人数１４名／定員３０名 (2)事業の経緯について 平成27年（2015年）日本財団から本事業コンセプトの説明を受け、平成28年（2016年）から事業開始、当初３年間は日本財団からの補助があったが４年目からは市独自の財源にて運営している。 (3)事業の成果について 町会の行事に誘われ参加したり、学校の会議に定期的に参加したり、協力関係が醸成されてきた。 (4)事業の財源について 厚生労働省に対し、事業継続には安定的な財源が必要と要望している。 (5)子どもの貧困対策について ①子どもの学習支援事業、母子生活支援施設への入所支援、ひとり親家庭自立教育訓練給付金事業、児童扶養手当、ひとり親家庭等医療費支給事業等を実施している。 ②子どもの貧困率は、６．２％（平成30年度子ども実態把握調査結果より）
所　　感	日本財団からの支援により、全国で第一号として「子どもの居場所づくり」事業が実施されている。財源については初年度から３年目までは日本財団からの支援金で運用してきたが、４年目以降については日本財団との契約により戸田市独自の事業として財源を確保し運営している。 「子どもの居場所づくり」の実施内容や成果について、共感できるところが見受けられるが、毎年約3,300万円の予算が必要となる現状において、利用者数と予算との費用対効果が気になるところである。 豊岡市における子どもの貧困率(2018年)12.7%は全国(2016年)13.9%より低いが、ひとり親世帯(子どもがいる現役世帯で大人が一人)の相対的貧困率豊岡市(2018 年)58.5%、全国(2016 年)50.8%と高くなっている。 不登校や引きこもり及び貧困対策の一環として、家でも学校でもなく子供たちが安心して笑顔で過ごせる「子どもの居場所づくり」に力を入れることが豊岡市でも必要と考える。

日　　時	2023 年５月 16 日（火）　午後１時 30 分～午後３時 30 分
視 察 先	千葉県柏市
調査項目	長寿社会のまちづくりについて
調査内容	(1)在宅医療と医療介護連携の推進 ・在宅医療・介護連携に取り組んだ背景ときっかけ ・在宅医療・介護連携の体系 ・情報共有システム ・取組の成果 (2)フレイル予防の推進 ・フレイル予防の沿革 ・柏フレイル予防プロジェクト 2025 ・フレイルチェックの特徴 ・かしわフレイル予防ポイント制度
所　　感	いずれの事業も体系的に、また、綿密に組み立てられている。個々の事業を見れば、豊岡市にも似通った事業があるが、体系的、綿密という点で大きな違いがある。事業目的を明確化し、事業効果を高めることにもつながる違いである。 (1)在宅医療と医療介護連携の推進 資料「柏市における長寿社会のまちづくり」の「１.在宅医療の取り組み」１０頁に病床使用率や入院患者数予測、終末期の療養場所に係る市民の希望は「自宅」が多いことなどから、「病院完結型」から在宅生活を支える「地域完結型」の医療・介護サービスが必要である、とされている。 医師や看護師等スタッフ確保の難しさもあるが、本来入院が必要な患者まで在宅生活を支える「地域完結型」の医療・介護サービス対象者としてカウントされていないか、一足飛びに在宅医療・介護サービスを、という結論には慎重であるべきだと感じた。 (2)フレイル予防の推進 フレイル予防活動を通じた地域のつながり（信頼・ネットワーク＝ソ―シャルキャピタル）を強め、健康な地域づくりを進めるとされている。また、ハイリスク者の社会参加促進を図る観点も強調されている。 地域づくりの一翼を担うまでの視点を持っていることに特徴があると感じた。 柏市は、本市の約５.５倍の人口が、本市の６分の１の面積の中に住まれており、その上民間企業の参入により非常に生活のしやすい環境にあると感じた。